

兵庫県健康づくり推進実施計画（第2次）の目標項目の評価と課題

— 歯及び口腔の健康づくり分野 —

<達成状況の評価について>

【数値目標の設定があるもの】
 ◎：達成（直近の値が目標を達成しているもの）
 ○：改善（直近の値が目標には達していないが、策定時の値からは改善しているもの）
 △：横ばい（計画策定時と目標値の差の±5%の範囲の変動のもの）
 ×：悪化（直近の値が策定時の値から悪化しているもの）
 【数値目標の設定がないもの】※増加・減少など

<指標数と目標達成状況>

	指標 (再掲)	目標項目 (再掲)	評価項目の数及び割合			※()内は割合	
			達成	改善	横ばい	悪化	未評価
歯及び口腔	14(2)	21(5)	8(38.1%)	10(47.6%)	2(9.5%)	1(4.8%)	0(0.0%)
計画全体	104(6)	163(12)	56(34.4%)	64(39.3%)	5(3.1%)	32(19.6%)	6(3.7%)

- ① 指標数について、「歯及び口腔」は14指標（計画全体の13.5%）である。「8020運動目標達成者割合の増加」の指標が成人期と高齢期の2項目で再掲となっている。
- ② 項目数について、「歯及び口腔」は21項目（計画全体の12.9%）である。「8020運動目標達成者割合の増加」の指標が40～80才代の年代別の5項目で再掲となっている。
- ③ 目標達成割合について、「歯及び口腔」は「達成」が8項目（38.1%）、改善が10項目（47.6%）で計画全体よりも達成・改善の約85%を占めている。また「悪化」項目は1項目（4.8%）である。

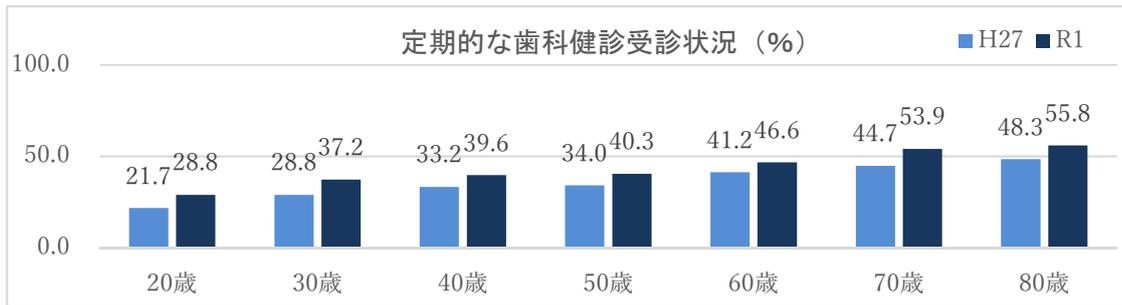
(1) 総合的な推進

計画の目標項目			現状値(H29策定時)		目標		直近の実績値			
[◎新規 ○一部変更 ☆審議会委員意見による追加等]			数値	年度	数値	年度	数値	年度	評価	備考
①	過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合の増加(20歳以上)		55.7%	H28	65%	H34	60.2%	R3	○	
②	かかりつけ歯科医をもつ人の割合の増加		71.5%	H27	84%	H34	75.9%	R3	○	
③	8020運動目標達成者割合の増加	40代(28歳以上)	64.4%	H28	77%以上	H34	76.5%	R3	○	
		50代(25歳以上)	80.1%		92%以上		91.6%	R3	○	
		60代(24歳以上)	68.4%		73%以上		78.6%	R3	◎	
		70代(22歳以上)	48.0%		64%以上		62.2%	R3	○	
		80代(20歳以上)	40.2%		42%以上		54.6%	R3	◎	
④	定期的な歯石除去や歯面清掃する人の割合の増加(20歳以上)		28.4%	H27	30%以上	H34	58.8%	R3	◎	

※①②③④は兵庫県健康づくり実態調査より

[歯科健診、かかりつけ歯科医、歯石除去や歯面清掃] …①②④

- ・歯科健診、かかりつけ歯科医の目標は「改善」、歯石除去や歯面清掃は「達成」。
- ・歯科診療所には歯が痛くなってから行くのではなく、歯科疾患を予防するために定期的に歯石除去等を受けに行くものが増えている。



(出典：市町歯周病等健診結果調査)

(2) 次世代への支援

計画の目標項目 [◎新規 ○一部変更 ☆審議会委員意見による追加等]		現状値(H29策定時)		目標		直近の実績値			
		数値	年度	数値	年度	数値	年度	評価	備考
①	3歳児のむし歯のない人の割合の増加	85.0%	H27	90%	H34	90.1%	R3	◎	暫定
②	3歳児のむし歯のない人の割合が80%以上である市町数の増加	39市町	H27	41市町	H34	41市町	R3	◎	暫定
③	12歳児で歯肉に炎症所見を有する者の減少	4.2%	H28	3%	H34	4.1%	R3	○	
④	12歳児での一人平均むし歯数が1歯未満である市町数の増加	29市町 70.7%	H28	34市町	H34	35市町 85.4%	R3	◎	
⑤	妊婦歯科健診、または歯科専門職による相談に取り組む市町数の増加	39市町	H28	41市町	H34	39市町	R3	△	

※①②は市町乳幼児歯科健診（3歳児歯科健診）結果調査より

※③④は保育所、認定こども園、幼稚園及び学校における歯科健診結果調査より

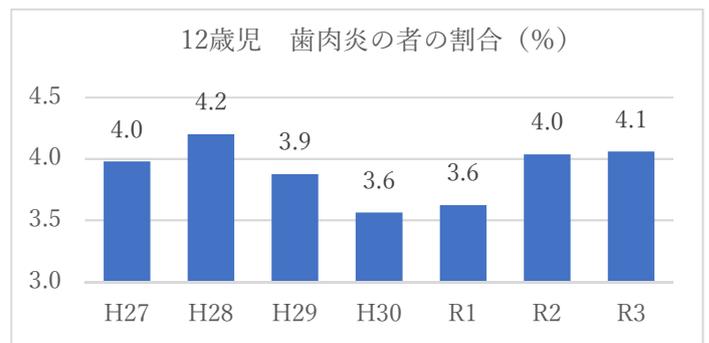
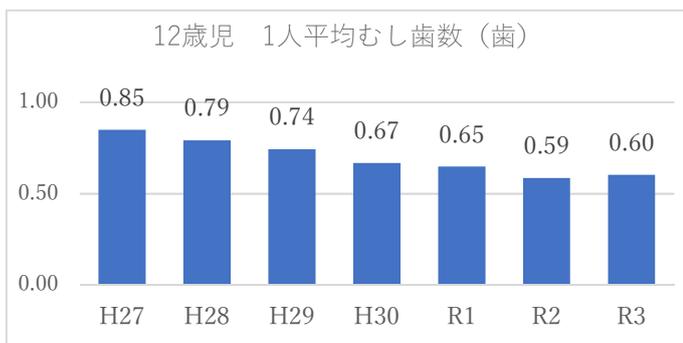
※⑤は市町歯科保健対策実施状況調査より

[3歳児のむし歯] …①②

- ・むし歯のない人の割合、市町数ともに「達成」。(※暫定値での評価)
- ・全市町でむし歯のない人の割合が80%以上に達しており、これは各市町の乳幼児むし歯予防対策の充実により、保護者の歯科保健に対する意識の変化と実践が定着した成果と考えられる。

[12歳児の口腔疾患] …③④

- ・歯肉炎のある者はH28年からR1にかけて減少傾向にあったが、R2・R3は増加に転じた。
- ・コロナ禍における学校での歯磨きの中止やマスク下での生活・臨時休校等による不規則な生活の影響等により口腔内環境が悪化したためと考えられる。
- ・1人平均むし歯数は年々減少傾向にあり、市町数も「達成」。



(出典：保育所、認定こども園、幼稚園及び学校における歯科健診結果調査)

[妊婦歯科健診] …⑤

- ・妊婦歯科健診は37市町実施で4市町が未実施となっており、受診率は25.9%（R2）と横ばいである。
- ・歯科専門職による歯科保健相談は28市町で実施されている。（R3）

区分		H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
妊婦歯科 健診	市町数	34	36	39	39	39	39	37
	受診率(%)	26.6	23.6	25.4	22.5	26.4	25.9	集計中
歯科保健相談(市町)		23	26	25	28	31	29	28

(3) 成人期の取組

計画の目標項目 [◎新規 ○一部変更 ☆審議会委員意見による追加等]			現状値(H29策定時)		目標		直近の実績値			
			数値	年度	数値	年度	数値	年度	評価	備考
①	8020運動目標達成者割合の増加【再掲】	40代(28歯以上)	64.4%	H28	77%以上	H34	76.5%	R3	○	
		50代(25歯以上)	80.1%		92%以上		91.6%	R3	○	

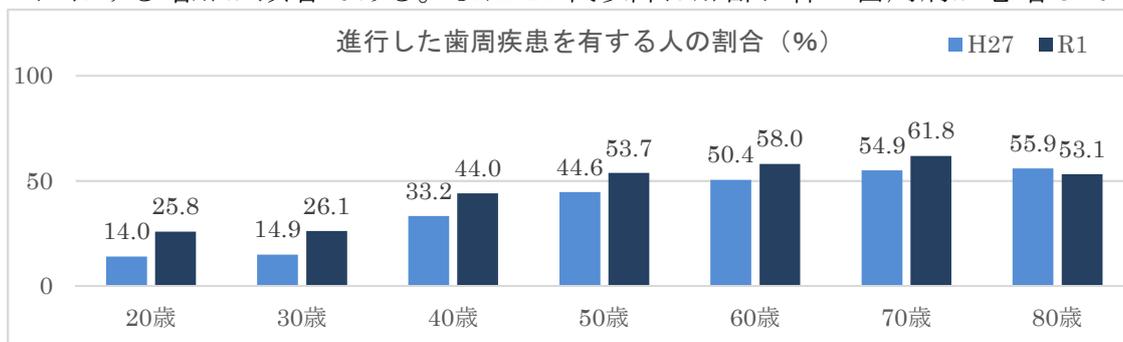
※①は兵庫県健康づくり実態調査より

[8020 運動目標達成者] …①

- ・40代、50代において8020運動目標達成者の割合は「改善」、増加傾向にあり。

[歯周疾患の状況]

- ・歯周疾患を有する者は、H27からR1にかけて増加傾向にあり、特に20代、30代の若い世代における増加が顕著である。また40代以降は加齢に伴い歯周病が急増している。



(出典：市町歯周病等健診結果調査)

(4) 高齢期の取組

計画の目標項目 [◎新規 ○一部変更 ☆審議会委員意見による追加等]			現状値(H29策定時)		目標		直近の実績値			
			数値	年度	数値	年度	数値	年度	評価	備考
①	8020運動目標達成者割合の増加【再掲】	60代(24歯以上)	68.4%	H28	73%以上	H34	78.6%	R3	◎	
		70代(22歯以上)	48.0%		64%以上		62.2%	R3	○	
		80代(20歯以上)	40.2%		42%以上		54.6%	R3	◎	
②	口腔機能の維持・向上(60歳代)における咀嚼良好者割合の増加		65.8%	H28	80%	H34	73.8%	R3	○	

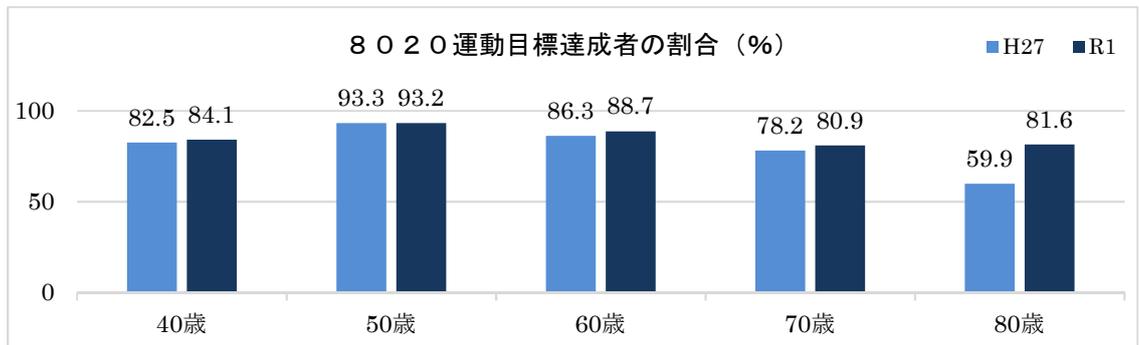
※①②は兵庫県健康づくり実態調査より

[8020 運動目標達成者] …①

・60代、80代では目標を「達成」、70代では「改善」。

[咀嚼機能良好者] …②

・60歳代以上の咀嚼良好者は「改善」し、嚙めていると認識している方の増加が見られる。
 ・一方でコロナ禍による受診控え、外出自粛による会話の制限に伴う口腔機能低下の影響が懸念される。



(出典：市町歯周病等健診結果調査)

(5) 配慮を要する者への支援

計画の目標項目 [◎新規 ○一部変更 ☆審議会委員意見による追加等]	現状値(H29策定時)		目標		直近の実績値			
	数値	年度	数値	年度	数値	年度	評価	備考
① 障害者(児)入所施設での定期的な歯科健診実施率の増加	73.8%	H29	90%	H34	64.2%	R3	×	
② 介護老人福祉施設及び介護老人保健施設での定期的な歯科健診実施率の増加	32.2%	H29	50%	H34	31.9%	R3	△	

※①②は障害者・要介護高齢者施設における歯科保健の取組に関する調査より

[障害者(児)入所施設での定期歯科健診] …①

・入所施設での定期歯科健診実施率は「悪化」しており、障害者(児)が定期健診を受診できる体制整備が必要。
 ・コロナ禍で施設における歯科健診の中止が相次いだため実施率が低化した。

[高齢者施設での定期歯科健診] …②

・介護老人福祉施設・介護保健福祉施設での定期歯科健診実施率は「横ばい」。
 ・コロナ禍で施設における歯科健診の中止が相次いだため実施率が低化した。